

三十九回蒼天句会 今月の一旬

令和八年一月十日 兼題..コート、又は自由

初御空詩のアンテナを高く立て

公子

裸木の瘤様々に道化顔

婦紗子

節料理厨に二色の割烹着

賢一

セーターの色さまざまに土手の道

繁一

妻の背の義母に似て来しカーデイガン

孝志

屋上に点滴同士日向ぼこ

洋一

埋火やアルミに包む安納芋

信江

初日の出雲の梯子を昇りくる

静江

初詣縁起の根付左馬

鎮夫

生足で分厚いコート女学生

國祥

新年の皇居彩る「春飾り」

隆彦

歳晚や万華鏡めく交差点

重子

冬帽を脱ぐ一瞬の顔認証

朱美

蒼天を突くがごとくに枯木立

紹子

焼き芋食ぶ雲間の朝日眺めつつ

久恵

カルティエのドアマン美男赤コート

晴代